

高速データロガー装置

製品仕様書

承認	照査	作成
		増岡
		'12/10/17



株式会社 ニコス

図番 NCSxxx002-A001

改版履歴

Rev1.0.0	2012/10/17	増岡	初版作成
Rev1.1.0	2013/06/20	宇田	誤記修正

□□□ 目次 □□□

1. 概要.....	4
2. 構成図.....	5
3. 収集方法.....	6
3-1. 収集開始.....	7
3-2. 収集終了.....	7
3-3. 収集モード.....	8
3-3-1. ノーマルモード.....	9
3-3-2. トリガ起動モード.....	10
3-3-3. トリガ連続モード.....	11
3-3-4. リモートモード.....	12
4. データ収集装置.....	13
4-1. 外観図.....	13
4-2. インターフェース仕様.....	14
4-2-1. アナログ入力信号.....	14
4-2-2. デジタル入力信号.....	15
4-2-3. デジタル出力信号.....	16
4-3. 基本機能.....	17
4-3-1. サンプリング機能.....	18
4-3-2. トリガ機能.....	18
4-3-3. 収集データ管理機能.....	19
4-3-4. 日付・時刻管理.....	19
4-3-5. 表示パネル機能.....	20
4-3-6. 通信機能.....	20
5. 収集データ管理パソコン.....	21
5-1. 動作環境.....	21
5-2. 基本機能.....	22
5-2-1. 収集データ管理機能.....	23
5-2-2. 収集データダウンロード機能.....	23
5-2-3. 日付・時刻管理.....	23
5-2-4. パソコン画面表示機能.....	24
5-2-5. バックアップ機能.....	24
5-2-6. 通信機能.....	25

1. 概要

本装置は、製造工場殿向けの品質管理用のアナログ入力信号（アナログ入力データ）2点を高速（100 μ sec周期）でサンプリングを行い、アナログ入力データの異常箇所等の特定を容易に行うことを目的とします。

本装置は、『データ収集装置』と『収集データ管理用パソコン』で構成されます。

『データ収集装置』では、2点のアナログ入力信号を高速（100 μ sec周期）でサンプリングを行い、「アナログ入力データ」として収集します。また、トリガ機能を有しており、トリガ要因（「4-3-2. トリガ機能」項を参照のこと）が発生すると、アナログ入力データと共に、「トリガポイント」として収集します。

さらに、収集モード（詳細は、「3-3. 収集モード」項を参照のこと）によって、収集したアナログ入力データ及びトリガポイントを、収集情報として管理することが可能です（但し、『データ収集装置』では、直接表示することができないため、後述の『収集データ管理アプリケーション』でダウンロードしてから参照することが可能です）。

『収集データ管理パソコン』は、パソコン本体等のハードウェアをお客様ご自身でご準備していただき、専用ソフトウェアのみをご提供します。

なお、本装置では、この専用ソフトウェアを『収集データ管理アプリケーション』と呼称し、本装置にCD-Rを標準添付します。

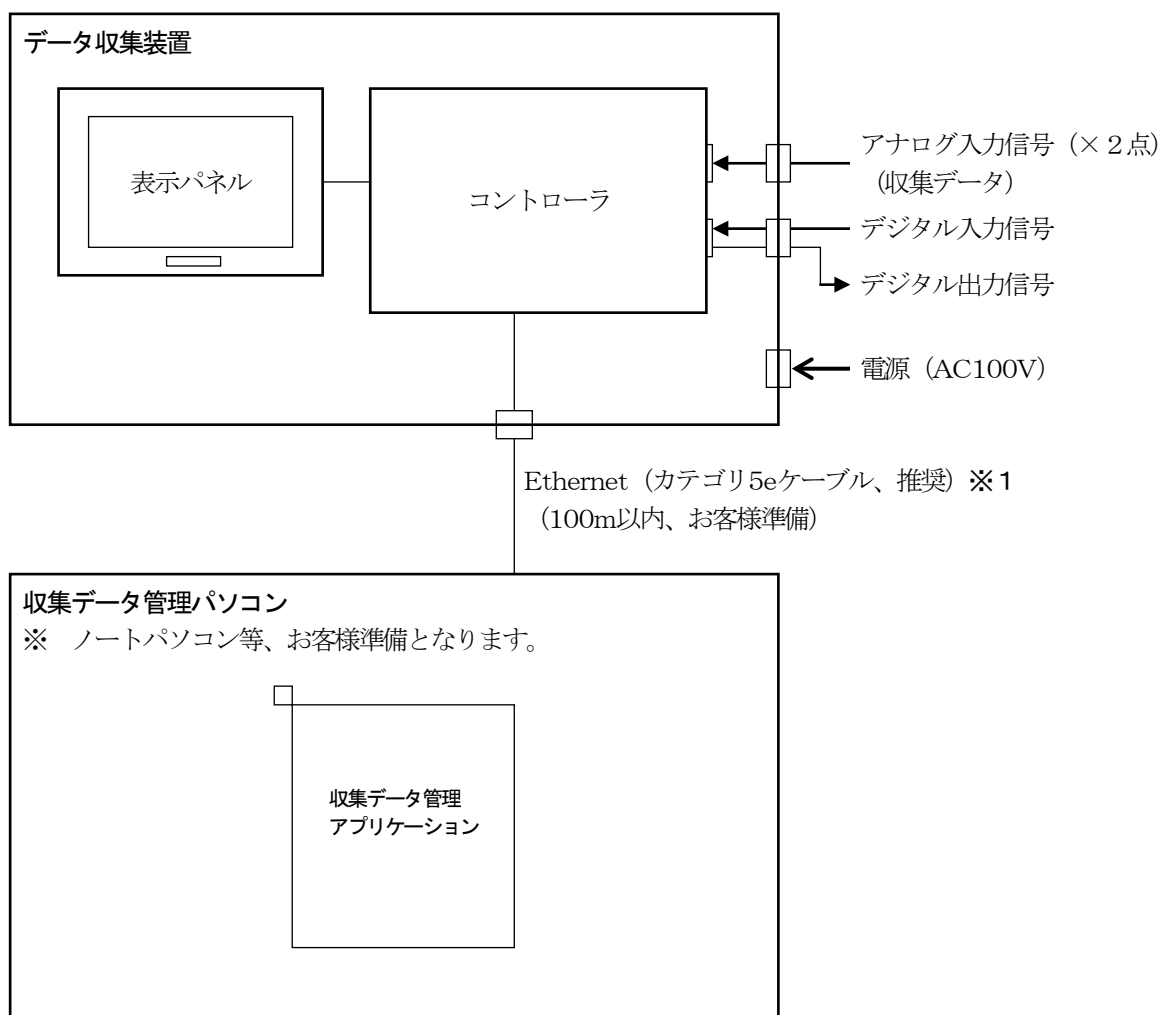
『収集データ管理アプリケーション』では、『データ収集装置』で収集したアナログ入力データ及びトリガポイントを、収集情報として管理し、一覧表示（検索機能を有する）やグラフ表示、バックアップを行うことが可能です。また、トリガポイントから、トリガ要因が発生した時のアナログ入力データを特定することも可能です。

さらに、『データ収集装置』で管理されている収集情報をダウンロードする機能を有し、グラフ表示、バックアップを行うことが可能です。

なお、『収集データ管理アプリケーション』では、『データ収集装置』の収集モード（詳細は、「3-3. 収集モード」項を参照のこと）が「リモートモード」の時のみ、Ethernetを介して、『データ収集装置』で収集したアナログ入力データ及びトリガポイントを読み込み、収集情報として管理することが可能です。

2. 構成図

本装置は、『データ収集装置』と『収集データ管理用パソコン』で構成され、それぞれEthernetを利用して接続します。



※1

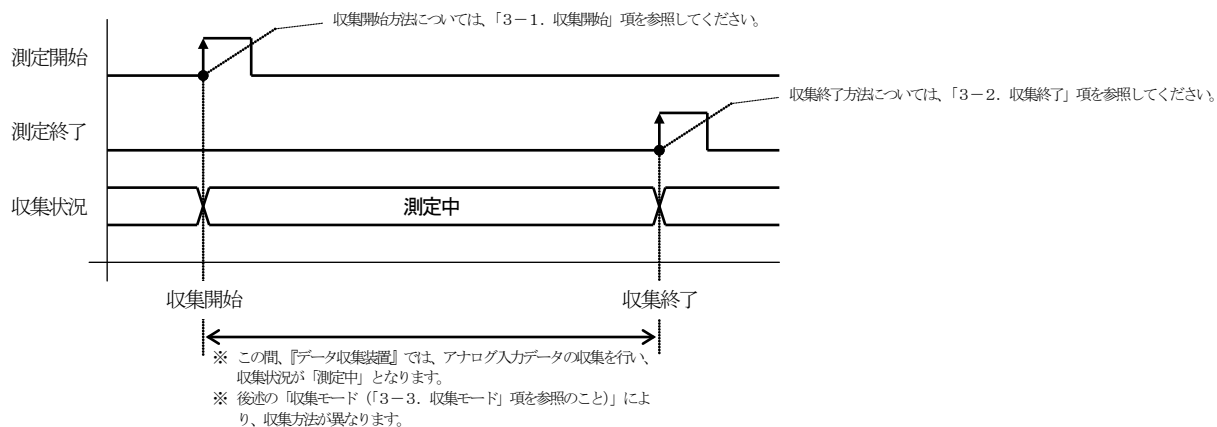
お客様準備のパソコンのLANポートがオートネゴシエーション未対応の場合、LANクロス変換アダプタをケーブル間に入れるか、クロスケーブルにて直接接続します。

なお、LANクロス変換アダプタはオプション品です。

オートネゴシエーション対応のLANポートであれば、この間のケーブルはストレートケーブルで問題ありません。

3. 収集方法

『データ収集装置』では、収集開始～収集終了までの間、アナログ入力信号のサンプリングを行い、アナログ入力データとして収集を行います。



3-1. 収集開始

『データ収集装置』でアナログ入力データの収集を開始する場合、以下に示す方法があります。

【収集開始方法】

- 表示パネル 表示パネルのモニタ画面にて、「収集開始」ボタンをタッチすることで、アナログ入力データの収集を開始します。
- デジタル入力信号 デジタル入力信号の「収集開始」信号の立上り（OFF→ON）を検出することで、アナログ入力データの収集を開始します。
- 通信 後述の「収集モード（「3-3. 収集モード」項を参照のこと）」が「リモートモード」の時、Ethernetを介して、『収集データ管理パソコン』からの「収集開始」コマンドを受信することで、アナログ入力データの収集を開始することが可能です。

3-2. 収集終了

『データ収集装置』でアナログ入力データ収集を終了する場合、以下に示す方法があります。

【収集終了方法】

- 表示パネル 表示パネルのモニタ画面にて、「収集終了」ボタンをタッチすることで、アナログ入力データの収集を終了します。
- デジタル入力信号 デジタル入力信号の「収集終了」信号の立上り（OFF→ON）を検出することで、アナログ入力データの収集を終了します。
- 通信 後述の「収集モード（「3-3. 収集モード」項を参照のこと）」が「リモートモード」の時、Ethernetを介して、『収集データ管理パソコン』からの「収集終了」コマンドを受信することで、アナログ入力データの収集を終了することが可能です。
- 収集時間 後述の「収集モード（「3-3. 収集モード」項を参照のこと）」が「ノーマルモード」の時、最大収集時間を経過することで、自動的にアナログ入力データの収集を終了します。

3-3. 収集モード

『データ収集装置』では、アナログ入力データの収集を行う方法として、以下の収集モードを準備しています。各収集モードの詳細説明については、次頁以降を参照してください。

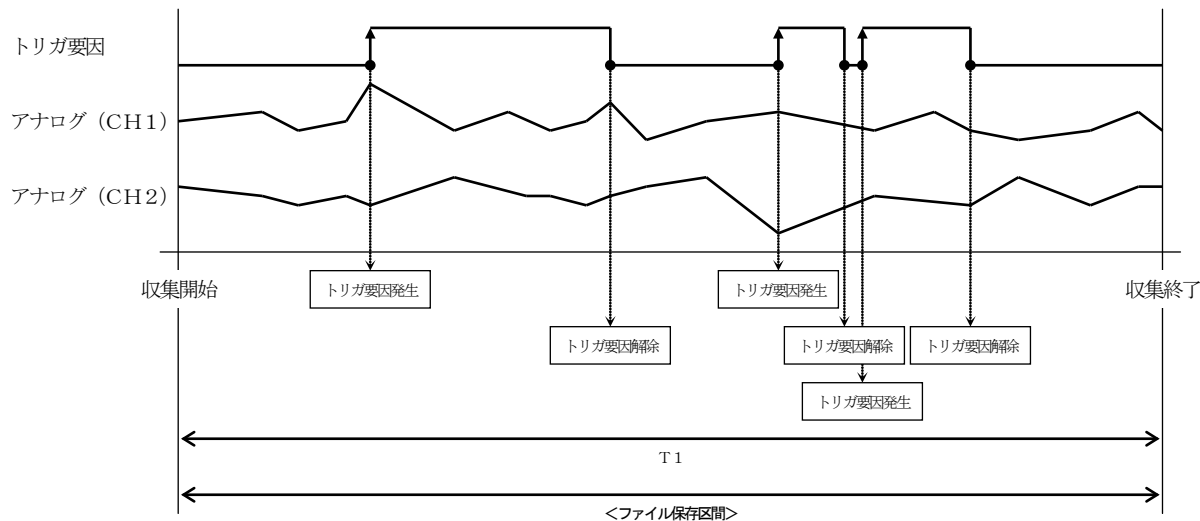
収集モードは、『データ収集装置』の表示パネルで切り換えることが可能です。

【収集モード】

- ノーマルモード
- トリガ起動モード
- トリガ連続モード
- リモートモード

3-3-1. ノーマルモード

『データ収集装置』の収集モードが「ノーマルモード」の時、収集した情報（アナログ入力データ及びトリガポイント）を、**収集開始～収集終了まで常時**、『データ収集装置』のコントローラ内部のファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。



【補足説明】

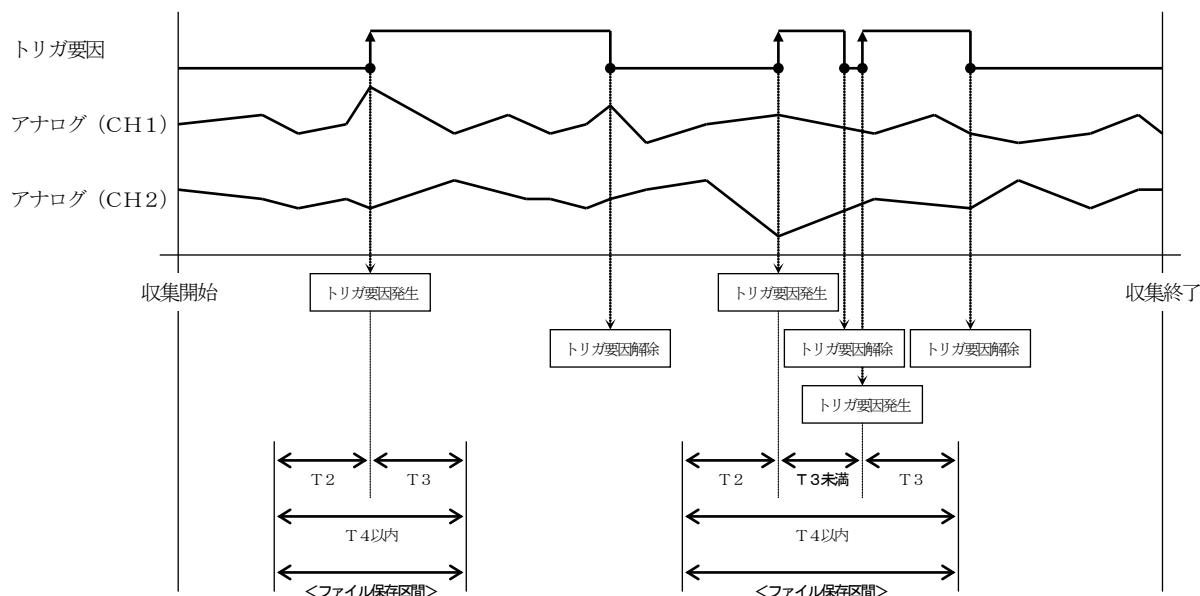
- ※ 『データ収集装置』のコントローラ内部に保存されるファイル（バイナリ形式ファイル）は、『データ収集装置』では、直接表示することができないため、『収集データ管理アプリケーション』でダウンロードしてから参照します。
- ※ 『データ収集装置』のコントローラ内部の保存容量に制限があるため、規定時間（上図中の「T1」）を経過することで、自動的にファイル（バイナリ形式ファイル）の保存を停止し、アナログ入力データの収集を終了します。
- ※ 上図中の規定時間の初期値は、以下に示すとおりです。
なお、規定時間については、『データ収集装置』の表示パネルで設定することが可能です。

＜規定時間＞

T1（最大収集時間）： 初期値 15分（設定変更可、1～60分）

3-3-2. トリガ起動モード

『データ収集装置』の収集モードが「トリガ起動モード」の時、収集した情報（アナログ入力データ及びトリガポイント）を、トリガ要因が発生したタイミングの直前から規定時間の間、『データ収集装置』のコントローラ内部のファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。



【補足説明】

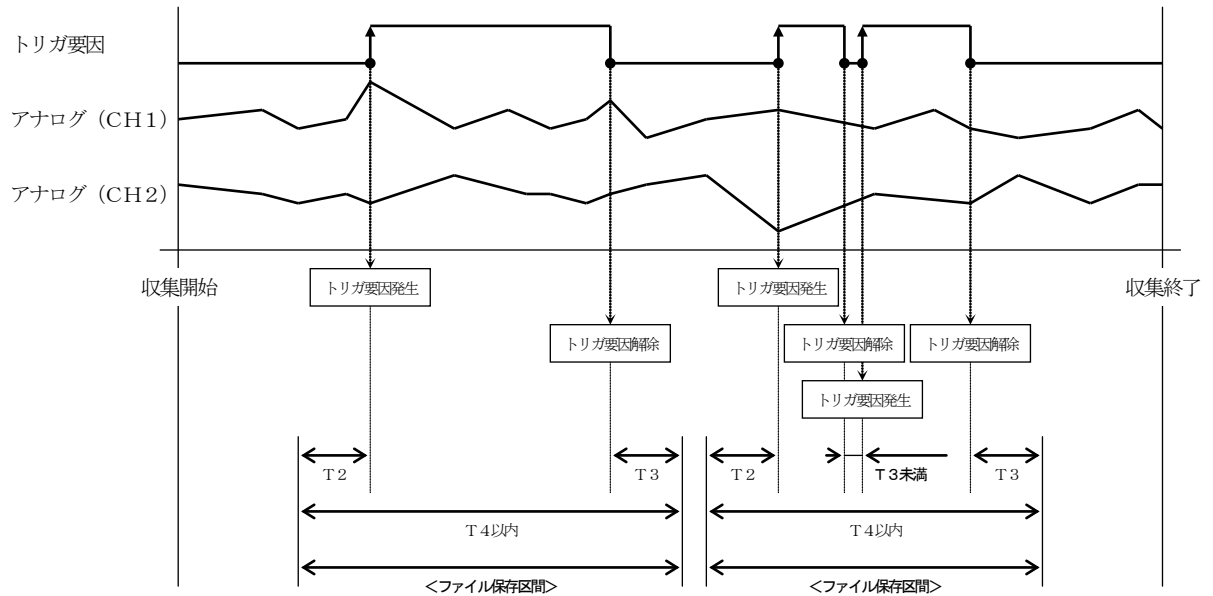
- ※ 『データ収集装置』のコントローラ内部に保存されたファイル（バイナリ形式ファイル）は、『データ収集装置』では、直接表示することができないため、『収集データ管理アプリケーション』でダウンロードしてから参照します。
- ※ トリガ要因が発生してから、次のトリガ要因が発生するまでの時間が、規定の時間（上図中の「T3」）未満の時、ファイル（バイナリ形式ファイル）の保存区間が延長されます。
- ※ 『データ収集装置』のコントローラ内部の保存容量に制限があるため、規定時間（上図中の「T4」）を経過することで、自動的にファイル（バイナリ形式ファイル）の保存を停止します。
- ※ 上図中の規定時間の初期値は、以下に示すとおりです。
 なお、規定時間については、『データ収集装置』の表示パネルで設定することが可能です。

＜規定時間＞

- T2（開始前保存時間）： 初期値5秒（設定変更可、1～60秒）
- T3（終了後保存時間）： 初期値5秒（設定変更可、1～60秒）
- T4（最大保存時間）： 初期値1分（設定変更可、1～5分）

3-3-3. トリガ連続モード

『データ収集装置』の収集モードが「トリガ連続モード」の時、収集した情報（アナログ入力データ及びトリガポイント）を、トリガ要因が発生したタイミングの直前の規定時間から、トリガ要因が解除されたタイミングの直後の規定時間までの間、コントローラ内部のファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。



【補足説明】

- ※ 『データ収集装置』のコントローラ内部に保存されたファイル（バイナリ形式ファイル）は、『データ収集装置』では、直接表示することができないため、『収集データ管理アプリケーション』でダウンロードしてから参照します。
- ※ トリガ要因が解除されてから、次のトリガ要因が発生するまでの時間が、規定の時間（上図中の「T3」）未満の時、ファイル（バイナリ形式ファイル）の保存区間が延長されます。
- ※ 『データ収集装置』のコントローラ内部の保存容量に制限があるため、規定時間（上図中の「T4」）を経過することで、自動的にファイル（バイナリ形式ファイル）の保存を停止します。
- ※ 上図中の規定時間の初期値は、以下に示すとおりです。
 なお、規定時間については、『データ収集装置』の表示パネルで設定することが可能です。

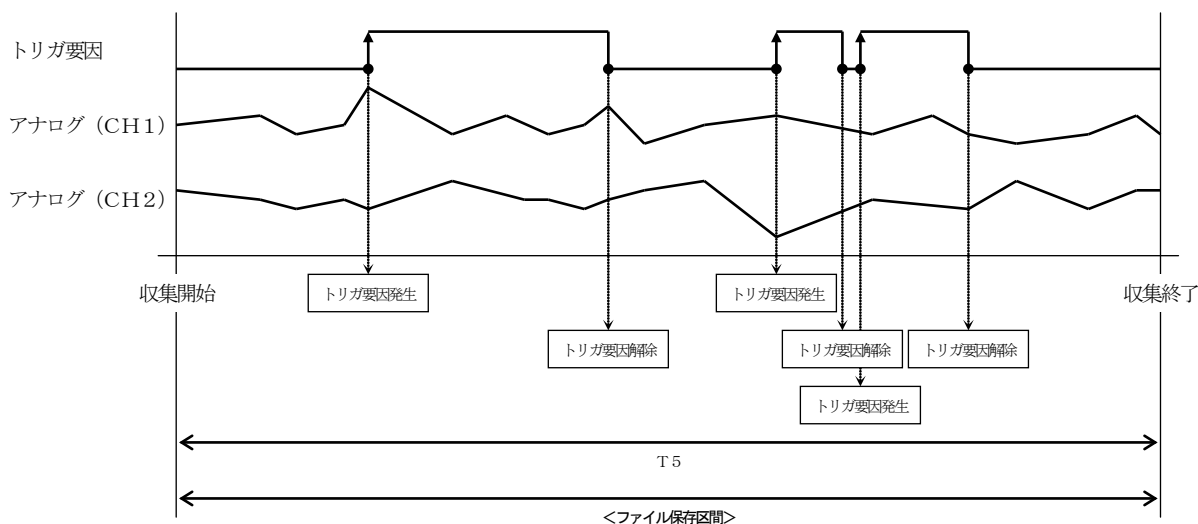
＜規定時間＞

- T2（開始前保存時間）： 初期値5秒（設定変更可、1～60秒）
- T3（終了後保存時間）： 初期値5秒（設定変更可、1～60秒）
- T4（最大保存時間）： 初期値1分（設定変更可、1～5分）

3-3-4. リモートモード

『データ収集装置』の収集モードが「リモートモード」の時、『収集データ管理パソコン』で収集を行います。

『収集データ管理パソコン』では、Ethernetを介して、『データ収集装置』で収集した情報（アナログ入力データ及びトリガポイント）を読み込み、**収集開始～収集終了まで常時**、『収集データ管理パソコン』のファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。



【補足説明】

- ※ 『データ収集装置』の収集モードが「リモートモード」の時、『収集データ管理パソコン』が接続されている必要があります。『収集データ管理パソコン』が接続されていない時、『データ収集装置』で収集開始することができません。
- ※ 『収集データ管理パソコン』から収集開始時刻及び収集終了時刻を指定することで、収集開始時刻を経過してから、収集終了時刻を経過までの間、自動的にアナログ入力データを収集することが可能です。但し、本機能を使用する場合は、『収集データ管理パソコン』で、『収集データ管理アプリケーション』を起動しておく必要があります。
- ※ 『収集データ管理パソコン』の保存容量に制限があるため、規定時間（上図中の「T5」）を経過することで、自動的にファイル（バイナリ形式ファイル）の保存を停止し、アナログ入力データの収集を終了します。
- ※ 上図中の規定時間の初期値は、以下に示すとおりです。
なお、規定時間については、『データ収集装置』の表示パネルで設定することが可能です。

<規定時間>

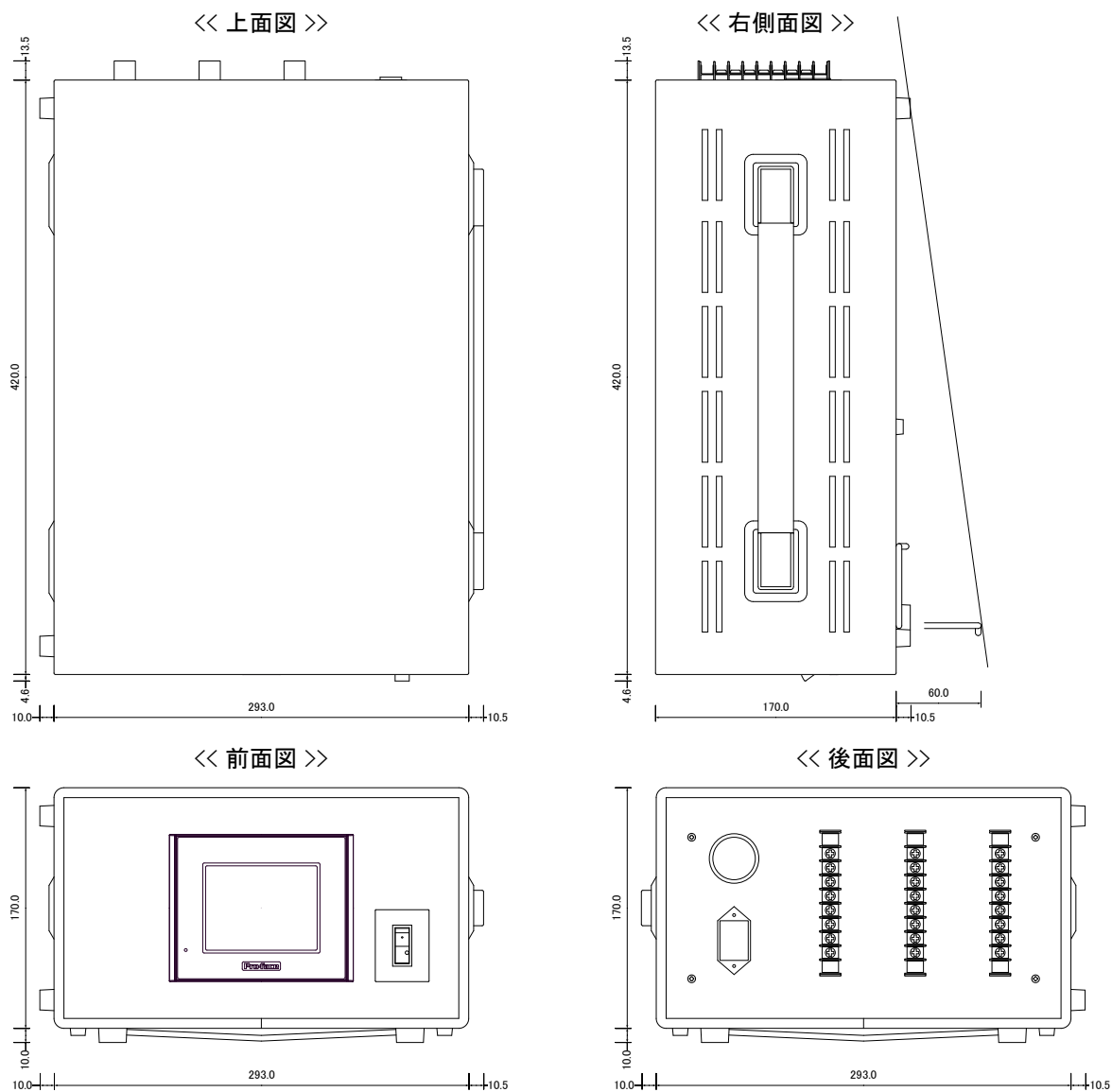
T5（最大収集時間）： 初期値15分（設定変更可、1～60分）

4. データ収集装置

『データ収集装置』は、コントローラと表示パネルを搭載します。また、外部からのアナログ入力信号及びデジタル入出力信号は、内部でコントローラと接続します。

4-1. 外観図

以下に、『データ収集装置』の外観図を示します



4-2. インターフェース仕様

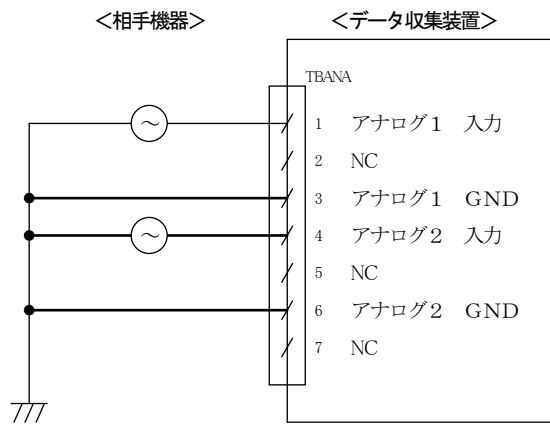
4-2-1. アナログ入力信号

【アナログ入力信号仕様】

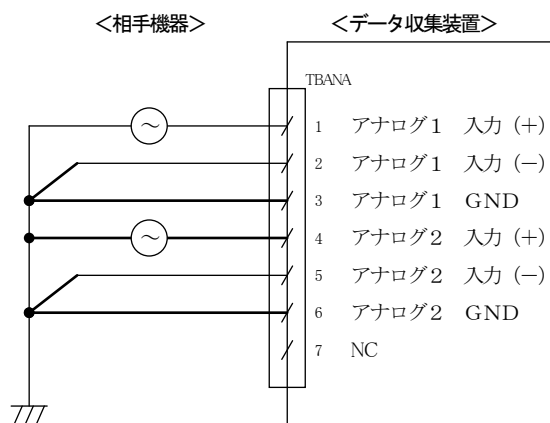
- | | |
|---------|---|
| ■ 絶縁仕様 | 非絶縁 |
| ■ 入力方式 | シングルエンド (ユニポーラ)、もしくは、差動入力 (バイポーラ) |
| ■ 入力点数 | 最大2点 |
| ■ 入力レンジ | チャンネル毎に以下のいずれかを選択 <ul style="list-style-type: none"> ・ ユニポーラ : 0~10V、0~5V、0~2.5V ・ バイポーラ : ±10V、±5V、±2.5V |
| ■ 分解能 | 16bit (0~65535) |
| ■ 変換速度 | 2μsec/チャンネル (最大) |

【接続図】

- シングルエンド (ユニポーラ) の時



- 差動入力 (バイポーラ) の時



【注意事項】

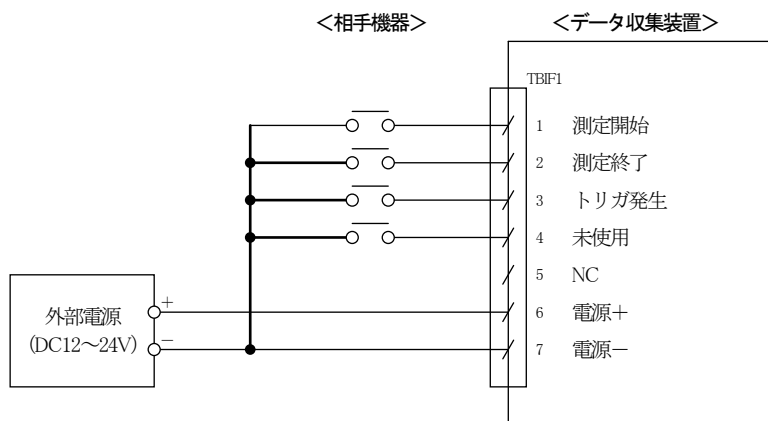
- ※ アナロググラウンド (GND) 端子は、チャンネル毎に独立していないため、測定対象の信号源のグラウンドレベルが異なる場合は、アイソレータ等を使用して、グラウンドレベルが同じになるように接続してください。

4-2-2. デジタル入力信号

【デジタル入力信号仕様】

- | | |
|----------|--------------|
| ■ 入力形式 | フォトカプラ絶縁入力 |
| ■ 動作電圧 | DC 12～24V |
| ■ 入力信号点数 | 4点（内、1点は未使用） |
- ・ 測定開始 本信号の立上り（OFF→ON）を検出すると、アナログ入力データの収集を開始します。
 - ・ 測定終了 本信号の立上り（OFF→ON）を検出すると、アナログ入力データの収集を終了します。
 - ・ トリガ発生 本信号の立上り（OFF→ON）を検出すると、「トリガポイント」として、アナログ入力データと共に、内部メモリに記憶します。
- 応答速度 200 μ sec以内

【接続図】

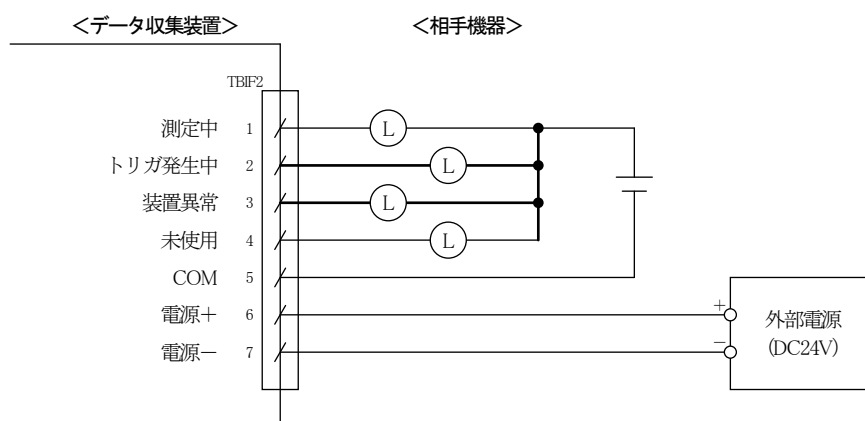


4-2-3. デジタル出力信号

【デジタル出力信号仕様】

- | | |
|--------|---|
| ■ 出力形式 | リレー出力 |
| ■ 動作電圧 | DC 24V |
| ■ 点数 | 4点 (内、1点は未使用) |
| | ・ 測定中 アナログ入力データの収集を行っている時、本信号を出力 (ON) します。 |
| | ・ トリガ発生中 トリガ要因が発生している間、本信号を出力 (ON) します。 |
| | ・ 装置異常 コントローラ内で異常が発生している時、本信号を出力 (ON) します。 |
| ■ 応答速度 | 10 msec 以内 |

【接続図】



4-3. 基本機能

『データ収集装置』では、以下の機能を有します。各機能の詳細説明については、次頁以降を参照してください。

【機能一覧】

- サンプルング機能
- トリガ機能
- 収集データ管理機能
- 日付・時刻管理機能
- 表示パネル機能
- 通信機能

4-3-1. サンプリング機能

『データ収集装置』では、高速（ $100\mu\text{sec}$ 周期）で2点（2チャンネル）のアナログ入力信号のサンプリングを行います。

サンプリングしたアナログ入力信号は、「アナログ入力データ」として、コントローラの内部メモリに記憶します。また、トリガ機能を有しており、トリガ要因（「4-3-2. トリガ機能」項を参照のこと）が発生すると、アナログ入力データと共に、「トリガポイント」として、コントローラの内部メモリに記憶します。

【サンプリング仕様】

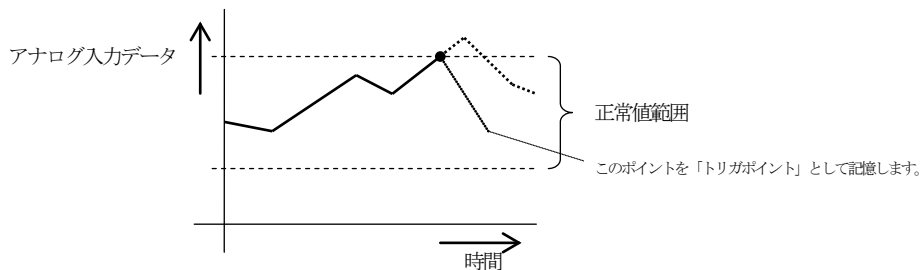
- サンプリング周期 $100\mu\text{sec}$

4-3-2. トリガ機能

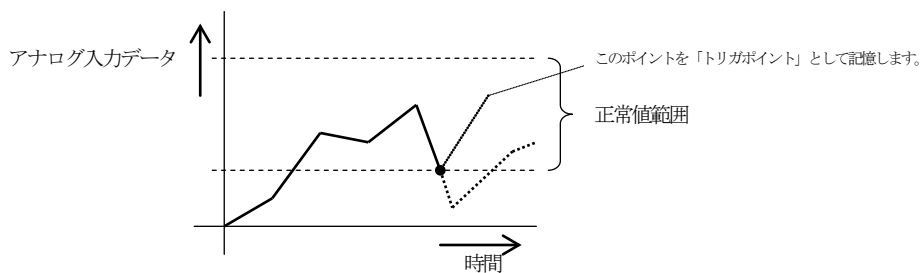
『データ収集装置』では、トリガ機能を有します。以下のトリガ要因が発生すると、この時のポイントを、「トリガポイント」として、コントローラの内部メモリに記憶されます。

【トリガ要因】

- デジタル入力信号の「トリガ発生」信号が変化（OFF→ON）した時
- 上限値範囲外（アナログ入力データが上限値を超えた）の時



- 下限値範囲外（アナログ入力データが下限値を下回った）の時



- 表示パネルの「強制トリガ」ボタンをタッチした時

4-3-3. 収集データ管理機能

収集モード（「3-3. 収集モード」項を参照のこと）が「ノーマルモード」／「トリガ起動モード」／「トリガ連続モード」の時、コントローラの内部メモリに記憶した「アナログ入力データ」及び「トリガポイント」を、収集情報として、コントローラ内部のファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。また、トリガ要因が発生した時の「トリガポイント」を、トリガ情報として、コントローラ内部のファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。

なお、収集が終了した時点で、「収集開始日時」「収集終了日時」等の収集した結果を、収集結果として、コントローラ内部のファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。

コントローラでは、収集情報／トリガ情報／収集結果は、収集モード（「3-3. 収集モード」項を参照のこと）を問わず、最大10件まで管理します。管理している件数が、10件を超えた時、一番古い収集情報／トリガ情報／収集結果を自動的に削除します。

【収集データ保存内容】

- 収集情報 収集開始～収集終了までの間、「アナログ入力データ」及び「トリガポイント」を、ファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。
- トリガ情報 収集開始～収集終了までの間、トリガ要因が発生した時の「トリガポイント」を、ファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。
- 収集結果 収集が終了した時点で、収集した結果を、ファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。

【補足説明】

- ※ 収集情報／トリガ情報／収集結果は、『データ収集装置』では、直接表示することができないため、『収集データ管理アプリケーション』でダウンロードしてから参照します。

4-3-4. 日付・時刻管理

収集した結果の「収集開始日時」「収集終了日時」等に利用する時計は、『データ収集装置』のコントローラ内部時計をもとに、日付・時刻の管理を行います。

なお、『データ収集装置』の表示パネルにて、日付・時刻を変更することが可能です。

4-3-5. 表示パネル機能

『データ収集装置』では、表示パネルを搭載し、以下の画面を有します。

【表示パネル画面】

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ モニタ | <p>コントローラの収集状況を表示します。また、各種操作を行うことが可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在値表示 現在のアナログ入力電圧値×各2チャンネル ・ 収集状況 測定中/停止中表示 ・ トリガ検知 トリガ表示（トリガ要因が発生した時に点灯） ・ 測定操作 開始ボタン/停止ボタン ・ 強制トリガ操作 強制トリガボタン |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 日付・時刻設定 | <p>コントローラの内部時計を設定します。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 入出力信号モニタ | <p>デジタル入出力信号のON/OFF状態を表示します。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ アナログ入力モニタ | <p>アナログ入力電圧値を表示します。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ コントローラ設定 | <p>コントローラの設定を行います。</p> <p>なお、設定可能な項目は、収集モード、アナログ入力電圧の入力レンジ、上下限範囲、規定時間値です。また、コントローラのIPアドレスを変更することも可能です。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 収集結果一覧 | <p>コントローラ内部に保存されているファイル（バイナリ形式ファイル）の一覧表示を行います。</p> <p>なお、この一覧から、収集結果を選択して、収集結果を削除することが可能です。</p> |

4-3-6. 通信機能

『データ収集装置』では、Ethernet（TCP/IP）を介して、コントローラと『収集データ管理パソコン』との通信を行います。

【通信仕様】

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ プロトコル | TCP/IP（IEEE802.3） |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 物理回線 | Ethernet（100Mbps/1000Mbps）、100BASE-TX/1000BASE-T |

5. 収集データ管理パソコン

『収集データ管理パソコン』のパソコン本体等のハードウェアについては、推奨スペック（「5-1. 動作環境」項を参照のこと）のパソコンをご自身で準備していただき、専用ソフトウェア（『収集データ管理アプリケーション』）のみの提供とします。

『収集データ管理アプリケーション』では、収集したアナログ入力データ及びトリガポイントを、収集情報として管理し、一覧表示（検索機能を有する）やグラフ表示、バックアップを行うことが可能です。さらに、『データ収集情報』で管理されている収集情報をダウンロードする機能を有し、グラフ表示、バックアップを行うことが可能です。

5-1. 動作環境

以下に、推奨スペックを示します。

『収集データ管理パソコン』は、推奨スペック（下表を参照のこと）のパソコンをご自身でご準備してください。また、『収集データ管理アプリケーション』は、本装置にCD-Rを標準添付しておりますので、ご自身でインストールしてください。

【動作環境】

	項目	要件
パソコン本体	プロセッサ	Intel社製プロセッサ 1GHz以上 (<u>2GHz以上を推奨</u>)
	メモリ	1GB以上 (<u>2GB以上を推奨</u>)
	ディスク	20GB以上のディスク (HDD/SSD) 空き容量
	ネットワーク	Ethernet (100Mbps/1000Mbps) 100BASE-TX/1000BASE-T、RJ-45コネクタ
	ドライブ	CD-ROM ドライブ (インストール時に必要)
	ディスプレイ	VGA (1,024×768ピクセル) 以上の解像度
	その他	マウス、もしくは、互換性のあるポインティングデバイス
ソフトウェア	オペレーティング・システム (OS)	Windows 7 (32bit/64bit、日本語)
	必須コンポーネント	Microsoft Windows インストーラ 4.5以降

5-2. 基本機能

『収集データ管理アプリケーション』では、以下の機能を有します。各機能の詳細説明については、次頁以降を参照してください。

【機能一覧】

- 収集データ管理機能
- 収集データダウンロード機能
- 日付・時刻管理機能
- パソコン画面表示機能
- バックアップ機能
- 通信機能

5-2-1. 収集データ管理機能

『データ収集装置』の収集モード（「3-3. 収集モード」項を参照のこと）が「リモートモード」の時、『収集データ管理アプリケーション』では、Ethernetを介して、『データ収集装置』のコントローラ内部のメモリに記憶した「アナログ入力データ」及び「トリガポイント」を読み込みます。

「アナログ入力データ」及び「トリガポイント」は、収集情報として、ファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。また、トリガ要因が発生した時の「トリガポイント」を、トリガ情報として、ファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。

なお、『データ収集装置』での収集が完了した時点で、「収集開始日時」「収集終了日時」等の収集した結果を、収集結果として、ファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。

『収集データ管理パソコン』では、収集情報／トリガ情報／収集結果は、最大100件まで管理します。管理している件数が、100件を超えた時、一番古い収集情報／トリガ情報／収集結果を自動的に削除します。

【データ管理内容】

- | | |
|---------|---|
| ■ 収集情報 | 収集開始～収集終了までの間、「アナログ入力データ」及び「トリガポイント」を、ファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。 |
| ■ トリガ情報 | 収集開始～収集終了までの間、トリガ要因が発生した時の「トリガポイント」を、ファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。 |
| ■ 収集結果 | 収集が終了した時点で、収集した結果を、ファイル（バイナリ形式ファイル）に保存します。 |

5-2-2. 収集データダウンロード機能

『データ収集装置』で管理されている収集情報／トリガ情報／収集結果は、『データ収集装置』では、直接表示することができないため、『収集データ管理アプリケーション』でダウンロードしてから参照することが可能です。

『収集データ管理アプリケーション』では、『データ収集装置』からダウンロードした収集情報／トリガ情報／収集結果をもとに、一覧表示（検索機能を有する）やグラフ表示、バックアップを行うことが可能です。また、『データ収集装置』で管理されている収集情報／トリガ情報／収集結果を削除することも可能です。

5-2-3. 日付・時刻管理

収集した結果の「収集開始日時」「収集終了日時」等に利用する時計は、『データ収集装置』のコントローラ内部時計をもとに、日付・時刻の管理を行います。

5-2-4. パソコン画面表示機能

『収集データ管理アプリケーション』では、以下の画面を有します。

【パソコン画面】

- モニタ

『データ収集装置』のコントローラの収集状況を表示します。また、『データ収集装置』の収集モード（「3-3. 収集モード」項を参照のこと）が「リモートモード」の時、収集開始～収集終了までの間、リアルタイムにアナログ入力データをトレンドグラフで表示します。

 - ・ 現在値表示 現在のアナログ入力電圧値×各2チャンネル
 - ・ グラフ表示 5, 000件（500msec）×2チャンネル

※ 通常は、最新をリアルタイムに表示します。トリガ要因が発生した時は、「トリガポイント」の前後を表示し、トリガ要因が発生するとグラフ更新が停止します。
 - ・ 収集状況 測定中／停止中表示
 - ・ トリガ検知 トリガ表示（トリガ要因が発生した時に点灯）
- 履歴一覧

収集した結果の履歴一覧を表示します。また、検索機能により、「開始日時」「終了日時」「トリガ検知有無」により、絞り込み検索を行うことが可能です。
- トレンドグラフ表示

収集した情報（アナログ入力データ及びトリガポイント）から、トレンドグラフの表示を行います。また、「トリガポイント」へのジャンプ機能を有しており、トリガ要因が発生した時のアナログ入力データを特定することが可能です。
- コントローラ設定

『データ収集装置』のコントローラの設定を行います。
なお、設定可能な項目は、収集モード、アナログ入力電圧の入力レンジ、上下限範囲値です。

5-2-5. バックアップ機能

『収集データ管理アプリケーション』では、『収集データ管理パソコン』で管理されている収集情報／トリガ情報／収集結果をもとに、CSV形式ファイルにバックアップを行うことが可能です。

なお、CSV形式ファイルは、任意のドライブ／パス／ファイル名を指定することが可能です。

【補足説明】

- ※ CSV形式ファイルとは

「Comma-Separated Values」（「Comma-Separated Variables」とも言う）の略。
いくつかのフィールド（項目）を『、』（カンマ）で区切ったテキストデータ及びテキストファイルを表し、「カンマ区切り」等とも呼ばれます。
主に、表計算ソフトやデータベースソフトがデータを保存するときに使う形式で、代表的なアプリケーションでは、Microsoft社製「Microsoft Excel」で開くことが可能です。

5-2-6. 通信機能

『収集データ管理パソコン』では、Ethernet (TCP/IP) を介して、『収集データ管理アプリケーション』と『データ収集装置』のコントローラとの通信を行います。

【通信仕様】

- | | |
|---------|---|
| ■ プロトコル | TCP/IP (IEEE802. 3) |
| ■ 物理回線 | Ethernet (100Mbps/1000Mbps)、100BASE-TX/1000BASE-T |